

定 期 作 況 報 告

平成22年 8 月
(8 月 20 日 現 在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

7月下旬：最高気温は平年より高く、最低気温は平年より極めて高く、平均気温は平年より高かった。降水量は平年より少なかった（平年比48%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比67%）。

8月上旬：最高気温、最低気温、平均気温は、ともに平年より極めて高かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比75%）。日照時間は平年並であった（平年比82%）

8月中旬：最高気温、最低気温、平均気温は、ともに平年より極めて高かった。降水量は平年並であった（平年比114%）。日照時間は平年並であった（平年比112%）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は平年と比較して、気温が極めて高く、降水量はやや少なく、日照時間は平年並であった。

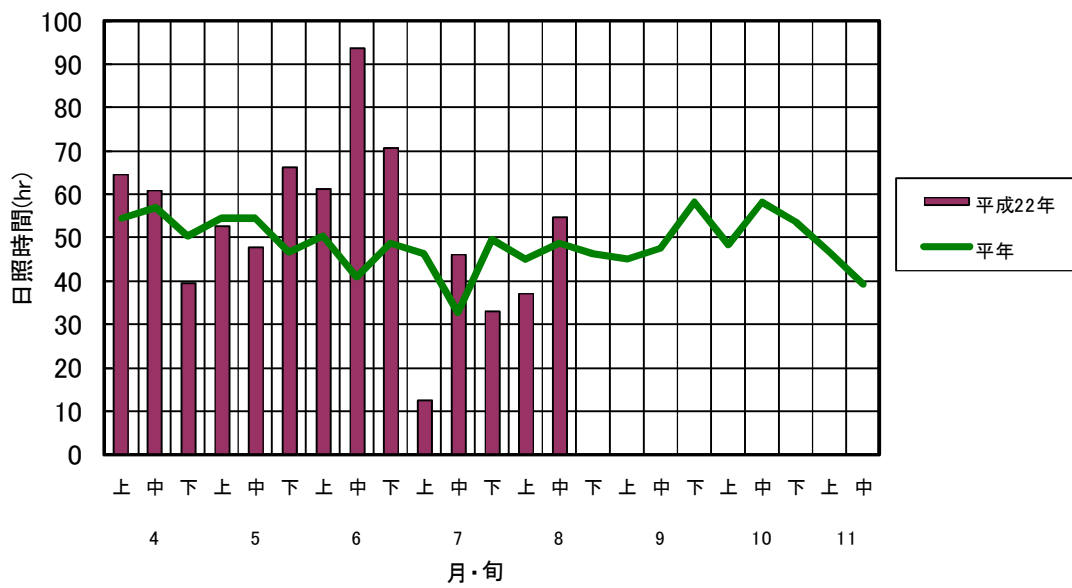
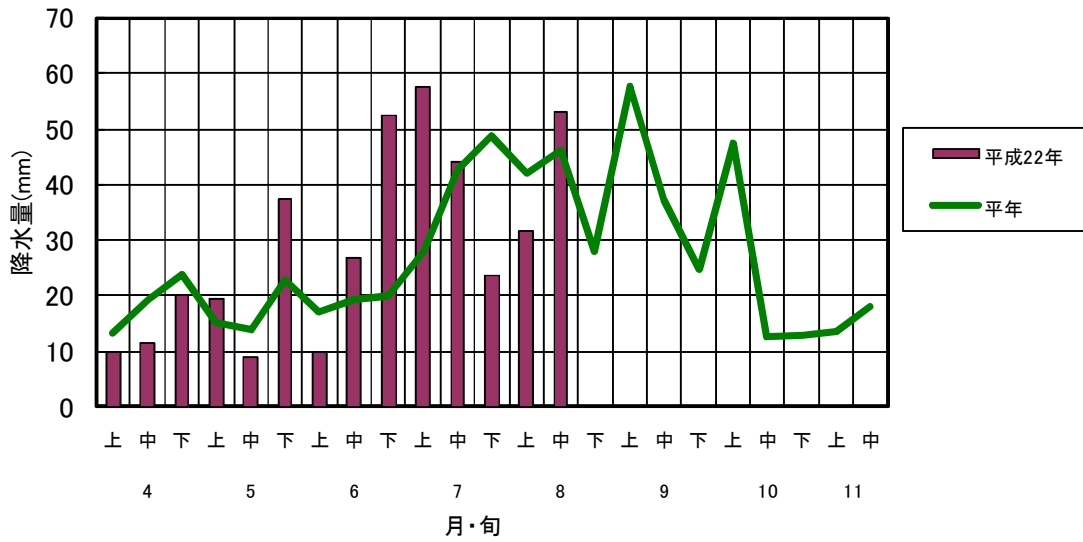
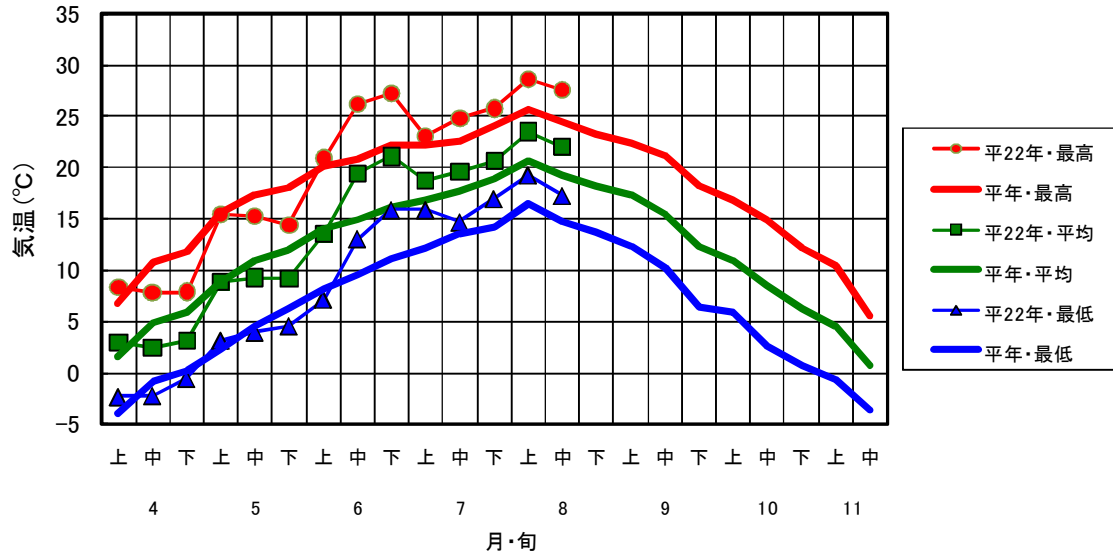
気 象 表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	20.7	18.9	1.8	25.8	24.1	1.7	17.0	14.3	2.7
8月上旬	23.5	20.6	2.9	28.6	25.7	2.9	19.3	16.5	2.8
8月中旬	22.0	19.3	2.7	27.6	24.5	3.1	17.3	14.8	2.5

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	23.5	48.8	△ 25.3	33.0	49.6	△ 16.6
8月上旬	31.5	41.9	△ 10.4	37.1	45.1	△ 8.0
8月中旬	53.0	46.3	6.7	54.7	48.9	5.8

注 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2) 平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作況：不良

事由：登熟期間中の平均気温が平年より高かったため登熟が促進され、成熟期は平年より6日早い7月20日であった。倒伏は極めて軽微であったが、登熟期間が平年より10日短くなったことから子実は充実不足となり、子実重は平年比94%と少なく、リットル重ならびに千粒重は平年を下回った。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	ホクシン		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	7.20	7.26	△6
子実重 (kg/10a)	577	616	△39
同上平年比 (%)	94	100	△6
リットル重 (g)	772	803	△31
千粒重 (g)	32.6	37.4	△4.8

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最豊)、18年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作況：やや不良

事由：7月下旬の気温が高く推移したことから登熟は進み、成熟期は平年より7～8日早かった。また開花期間にあたる6月下旬から7月上旬が高温多湿であったため赤かび病の発生が目立った。穂数は平年並であったが(前報)、登熟期間が短くなったことによる子実の充実不良が懸念される。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.2	8.9	△7	7.31	8.8	△8

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : やや良

事 由 : 6月中旬からの高温傾向に引き続き、7月も平年より高温で推移したことから、開花期と抽糸期はともに平年より7日早かった。8月も気温が平年よりも極めて高く推移したため、草丈は平年を約20cm上回り、葉数は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
開花期 (月.日)	7.29	8.5	△7
抽糸期 (月.日)	7.29	8.5	△7
草丈 (cm) (8月20日)	318.4	298.5	19.9
葉数 (枚) (8月20日)	14.7	14.8	△0.1

注) 平年値は前6か年の平均 (供試品種を変更したため)。

4) 大 豆

作 況 : 良

事 由 : 主茎長は平年並、主茎節数と分枝数は平年をやや下回っている。7月下旬～8月中旬の気温は極めて高かったため、開花、着莢は順調に推移し、着莢数は平年と比べ、「トヨコマチ」で17%、「ユキホマレ」で6%、それぞれ上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長 (cm) (8月20日)	64.1	63.3	0.8	64.3	61.8	2.5
主茎節数 (8月20日)	10.3	11.3	△ 1.0	10.7	11.2	△ 0.5
分枝数 (本/株) (8月20日)	4.3	5.8	△ 1.5	3.9	5.3	△ 1.4
着莢数 (莢/株) (8月20日)	77.6	66.1	11.5	67.7	63.8	3.9

注1) 平年値は前7か年中、17年 (最豊)、平成21年 (最凶) を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

5) 小豆 作況：良

事由：主茎長は平年を大きく上回り、8月上旬以降、倒伏が発生した。主茎節数は平年を上回り、分枝数は概ね平年並である。7月下旬～8月中旬の気温は極めて高かったため、開花、着莢は順調に推移し、着莢数は平年を大きく上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長 (cm) (8月20日)	97.0	58.8	38.5	79.6	62.5	17.1
主茎節数 (8月20日)	14.2	11.9	2.3	14.3	13.1	1.2
分枝数(本/株) (8月20日)	5.4	5.3	0.1	5.5	4.9	0.6
着莢数(莢/株) (8月20日)	84.2	52.6	31.6	88.5	38.1	50.4

注1) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

6) 菜豆 作況：平年並

事由：7月下旬～8月中旬の気温は極めて高かったため、生育は順調に推移している。草丈は平年を上回っているが、主茎節数はやや下回っている。分枝数は平年をやや上回っている。着莢数は概ね平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈 (cm) (8月20日)	53.0	39.6	13.4	55.3	41.2	14.1
主茎節数 (8月20日)	5.0	5.3	△ 0.3	5.1	5.6	△ 0.5
分枝数(本/株) (8月20日)	5.2	4.9	0.3	5.4	4.6	0.8
着莢数(莢/株) (8月20日)	21.8	22.4	△ 0.6	21.8	20.7	1.1

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、21年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが4cm以上のものを示す。

7) ばれいしょ 作 況：やや不良

事 由：7月下旬から8月上旬は降水量がやや少なかったものの、常に土壌は湿潤であり、また7月下旬以降も前期に引き続き高温に経過したため、茎長は平年を大きく上回り徒長している。上いも重は「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年並であるが、でん粉価は平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎長(cm) (8月20日)	69	45	24	111	79	32
茎数(本/株) (8月20日)	3.9	3.2	0.7	2.9	3.0	△ 0.1
上いも重(kg/10a) (8月20日)	4045	4187	△ 142	3176	3261	△ 85
でん粉価(%) (8月20日)	13.6	15.2	△ 1.6	19.7	20.3	△ 0.6

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

8) てんさい 作 況：平年並

事 由：7月下旬～8月中旬の気温が極めて高かったことから、地上部生育は抑制された。移植栽培では、生葉数および茎葉重は平を下回っており、根重および根周は概ね平年並である。直播栽培では、生葉数は平年を下回っているが、根重および根周は平年をやや上回っている。

以上のことから目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	67.3	62.3	5.0	59.8	58.8	1.0	70.0	62.0	8.0
生葉数(枚) (8月20日)	25.6	27.4	△1.8	25.5	27.7	△2.2	24.7	26.6	△1.9
茎葉重(g/個体) (8月20日)	857	913	△56	890	997	△107	906	871	35
根重(g/個体) (8月20日)	634	648	△14	728	725	3	519	465	54
根周(cm) (8月20日)	29.7	29.5	0.2	32.7	31.9	0.8	27.6	26.2	1.4

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、19年(最凶)を除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況:不良

事由:2番草は平年より4日遅い8月13日に収穫を行った。草丈と節間伸長程度は平年を上回ったものの、乾物率が低く乾物収量は平年比102%と平年並であった。1番草との合計乾物収量は平年比88%と少なかった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	2番草	8.13	8.9	4
節間伸長程度	2番草	4.0	2.9	1.1
病害罹病程度	2番草	2.5	3.6	△1.1
草丈(cm)	2番草	76	54	22
生草収量(kg/10a)	2番草	1178	873	305
乾物率(%)	2番草	17.2	23.0	△5.8
乾物収量(kg/10a)	2番草	203	199	4
同上平年比(%)	2番草	102	100	2
乾物収量(kg/10a)	1+2番草	728	824	△96
同上平年比(%)	1+2番草	88	100	△12

注1) 平年値は前7か年中、平成16年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 節間伸長程度は、1:無~9:極多。病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

10) たまねぎ

作況:やや不良

事由:球肥大期は「改良オホーツク1号」では平年並であったが、「スーパー北もみじ」では平年より5日遅れた。7月下旬~8月上旬の気温は平年に比べて極めて高く推移し、倒伏期は、「改良オホーツク1号」では平年より3日、「スーパー北もみじ」では平年より11日早かった。このため、球肥大が劣り、「改良オホーツク1号」、「スーパー北もみじ」とともに、一球重は平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期(月.日)	7.7	7.8	△1	7.27	7.22	5
倒伏期(月.日)	8.1	8.4	△3	8.4	8.15	△11
一球重(g)(8月20日)	223.0	256.0	△33.0	203.1	248.7	△45.6

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)を除く5か年の平均。